

そうじの力だより

VOL.211



支援事例紹介

見せる工場から魅せる工場へ
「オープンファクトリー」を目指して

福井県鯖江市の(有)フライン。メガネのフレームなどに、オシャレなデザインを印刷する特殊印刷の会社です。社員一〇人ほどの小さな会社ですが、十一年前から、弊社の支援により、環境整備が続けられています。

当初、工場内は、床も壁も机も機械も、インクまみれでした。モノが多く、手狭で、通路もまともに確保できないような状況でした。

しかし、それでも印刷業界の中では、比較的キレイな方だったと思います。社員さんたちの質も、決して悪くはありませんでした。

それでも活動のスタート時には、「なんでそんなことやの？」「今でも十分にキレイだよ」「そうじをするくらいなら、仕事をやりたい」「そんな立派なこととはできない」という意見が出て、消極的な姿勢が目立ちました。

とにもかくにも、藤井高大社長の強い意志で、十一年前に活動がスタートしました。

まず、不要なもの徹底的に捨てました。

当初、作業業者一人につき、大柄なスチー

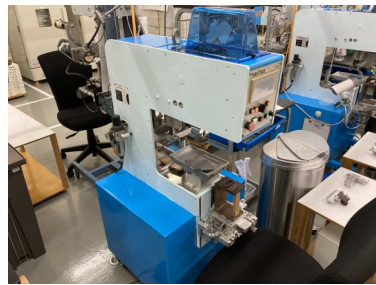


広々としてピカピカの、現在の工場内

また、物置小屋と化していた部屋にあったものを、いったん全部出して、そのほとんどを捨てたことにより、この部屋をインク部屋として有効活用できるようになりました。

また、物置小屋と化していた部屋にあったものを、いったん全部出して、そのほとんどを捨てたことにより、この部屋をインク部屋として有効活用できるようになりました。

そして、床面や壁面、機械表



インクを除去してピカピカになった機械

落ち、自分で塗り直ししました。

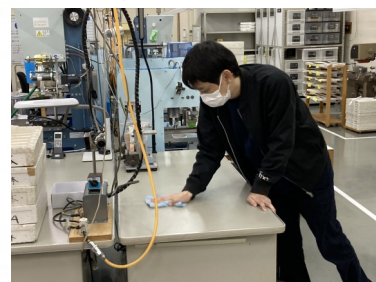
活動スタート時には、毎朝一〇分間、拭き掃除や掃き掃除などをしていたのですが、そのうちに、一〇分間では足りない、という声が上がりが、三〇分間に延長しました。

さらに、月に一回、半日かけて、大掛かりな整理・整頓や改善を行っています。こうした取り組みを、この十一年間、ずっと続けています。

当初、消極的だった社員さんたち

も、どんなに積極的になっても、いろいろなアイデアを出してきています。

周辺のゴミ拾いや、落書き消しなども、社員の発案で取り組むようになりました。



朝の30分間掃除で各所を拭き上げる

活動を通じて、社内コミュニケーションが良くなり、社内がよりいっそう明るい雰囲気になりました。



トレーの裏側も、丁寧に拭いてキレイにする

近年は、工場見学者が増えています。環境整備に取り組む以前は、工場見学は受け付けていませんでした。「秘匿情報を見られては困るから」というのが表面の理由でしたが、実際には、工場が汚くて見せられない、というのが本音でした。

しかし、こうして工場内がキレイに整ってくれば、見てもらうことに抵抗

はありません。取引先や同業者が頻りに訪れるようになりました。

ところが、そこにコロナ禍が襲いこの三年間ほどは、工場見学を停止してしまいました。今年はいよいよ工場見学を再開します。

せっかくならば、より見栄えよくしたい、ということで、昨年、デザイナーを入れて、工場内のデザインを一新しました。

これまでは、整理・整頓・清掃の観点から、工場内はピカピカにキレイでした

が、さらに、デザイナーにデザインしてもらった看板



デザイナーにデザインしてもらった看板

見学者に見てもらおうのは、受け入れる側にとつても、メリット大です。いつ見られてもいいように、常に整える習慣が身につきます。見られることで、自分たちのやっていることに誇りを感じられます。キレイな工場は、それだけで信頼を勝ち得ることができます。

今期の活動目標は、「働く人も、訪れた人も、気持ちよく心地よい空間を創る」です。「お客様を魅了する工場」を目指して、前進します。(小早)

オンラインでの研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずは[ホームページ](#)をご覧ください。

今月の読書から

『任侠病院』今野敏 著

～経営の立て直しは、まず掃除から～



今野敏による、コメディタッチの小説『任侠シリーズ』の3作目です。

阿岐本組は、下町に本拠を置く、小さなヤクザの組。「決して堅気には手を出さない」「ゴミ捨て場の

掃除だとか、雑草取りだとかいった細かな雑事をこなしておくことで、地元の住民の信頼を得る」といった、彼らなりの「任侠道」を貫く、ちょっと変わったヤクザです。

そんな彼らが、なぜか、経営の傾いた企業の再建を任せられ、ユニークな手法で改革していき、再建を成功させるシリーズ。

組長の阿岐本雄蔵は、「経営の立て直しは、まず掃除から」という独特の哲学を持った一本気なヤクザ。

以下、印象に残ったシーンです。

「日村は、道路に面して建っている古い建物を見上げた。壁はもともとは白かったのかもしれないが、今はくすんだ灰色で、雨によってできた黒い筋が何本も表面を走っている。窓ガラスは曇っている。玄関ドアもガラスでできているのだが、それもくすんでいた。(中略)阿岐本のオヤジは、車を下りると言った。「なあ誠司。まずやらなければならないことが、はっきりしたよなあ」「はあ…」かつて、荒れ果てた高校を立て直そうとしたとき、阿岐本のオヤジがまずやったのは、掃除と荒れた花壇の手入れだった。建物がすさんでいると、その中にいる人々の気持ちもすさむ。」

「心を入れ替えるためには、まず掃除なのだ。それが阿岐本のやり方だ。人の気持ちは、入れ物で変わる。暗く陰湿な場所にいるだけで、心はすさんでくる」

「今までどおりやっていたんじゃ、この病院は潰れちまう。ですからね、思い切った改革をどんどんやっていかなければならないんです。それもわかってもらえませんか?」「はい。しかし、それと壁の掃除と

どうい関係があるんです?」阿岐本のオヤジは、にっと笑った。「まあ、見てください」

「掃除なら、定期的に業者がやってくれますよ」「いや、それでは意味がないんで…」「意味がない…? どうしてです。掃除なんて、誰がやっても同じでしょう」「自分が住む場所や働く場所は、自分の手できれいにする。これが新理事会の方針なんです」

「まあ、すぐには効果はないかもしれない。でもね、誰だって薄汚れた病院よりもきれいで明るい病院にかかりたいと思うんじゃないかね? 何て言ったっけね? 心理的効果ってのかね? そういうの意外と重要なんじゃないですかね?」

「すでに壁はあらかたきれいになっていた。建物の印象がずいぶん明るくなったと感じた。ただ、壁をきれいにするだけで、病院に対して信頼度が上がったような気がした。」

単なるエンターテインメントとしても楽しめる、大好きなコメディです。(小早)

編集後記

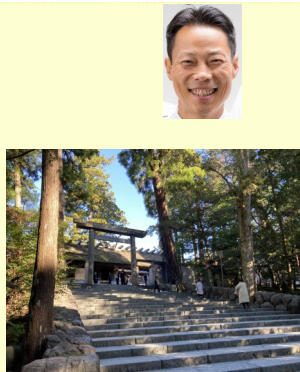
そうじは神事

先日、支援先の社長の勧めで、伊勢神宮に参拝に行ってきました。

御垣内参拝と言って、通常の参拝場所より内側で参拝するために、滅多に着ないスーツとネクタイで緊張して臨みました。

境内では、いたるところで職員さんたちがホウキを持ってそうじをしていました。もちろん、ゴミなどはほとんど落ちておらず、清涼で厳粛な雰囲気を保たれています。

まさに、「そうじは神事」だと感じさせられました。(小早)



飛鳥のつばやき

一蓮托生

次男が保育園からもらったインフルエンザ。見事に家庭内でクラスター発生(TVT)。

次男→私→長男と順番に発症し(旦那氏一人だけ免れる)、高熱と関節痛でゾンビのように過ごすことに…:(^_^):

コロナ、胃腸炎、インフルエンザと、こどもは本当にあらゆる病気を運んでくることを実感。

免疫を獲得して、モリモリ強い一家になるぞー!

(でもできればもう雇いたくないなあ…(^q^)) (大槻)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は「そうじ＝環境整備」を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)